

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 構内に 1 月に出現した春型のヤマトシジミ (シジミチョウ科)

Spring type of the pale grass blue butterfly *Zizeeria maha argia* (Lycaenidae) appeared in January in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University at Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

北海道を除く日本全体をはじめ東南アジアにかけて広く分布するヤマトシジミ類は、本州では主にカタバミが幼虫の食草であり、他のチョウ類と同様に季節型が区別される。出現期間は我が国では4 - 11月（普通、年5 - 6回発生）で、4令幼虫で越冬する（白水・黒子, 1972; 高橋ほか, 1973）。近年、本種の生理的および遺伝的性質について、福島原発事故の被爆による影響が報告されている（Hiyama et al, 2012）。

今回、真冬の2013年1月20日正午頃、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の研究棟正面入り口付近を元気よく飛翔している一頭を両手で捕えた。その時、体の一部が多少傷んだ。この個体は約2週間をかけて展翅標本とした。今回、この稀少例個体の形態について以下に報告する。

模様からみて春型で、左翅長は15 mm、触角長7 mmとやや小型であった（図1）。本種は構内では普通種で、食草であるカタバミの花の咲く季節に多いが（久保田・梅本, 2011 参照）、厳冬期に出現したのは初めてである。このような時期に開花しているツワブキなどの蜜を吸って生きていられたのかもしれない。



図1. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内研究棟入口で冬季に捕えたヤマトシジミ雄（展翅後撮影）

引用文献

Hiyama, A., Nohara, C., Kinjo, S., Taira W., Gima, S., Tanahara, A., and Otaki, M. 2012. The biological impacts of the Fukushima nuclear accident on the pale grass blue butterfly. Sci. Rep., 2: 570 DOI: 10.1038/srep00570.

久保田 信・梅本信也. 2011. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ（カタバミ科）の奇形花. 瀬戸臨海実験所年報, 24: 45.

白水 隆・黒子 浩. 1972. 標準原色図鑑全集 第一巻（7刷）. 蝶・蛾. 188頁, 保育社, 大阪.

高橋 昭・田中 蕃・若林守男. 1973. カラー自然ガイド 日本の蝶 II. 151頁, 保育社, 大阪.

（くばた しん 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）